

保 多 当

◆建設的な生き方へのお手伝い (Just do it!) ◆
 ~あなたの悩み事は当社までご相談下さい~
 【今月の一冊】 読んだら忘れない読書術
 榊沢 紫苑 著 サンマーク出版
 ホームページ URL <http://primecorporation.jp/>

発行日 2018年10月1日 Vol. 192
 発行元 有限会社プライム・コーポレーション
 ライフコンサルタント 渡邊 敏 徳
 〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲 147 番地
 TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

AI 大量失業時代

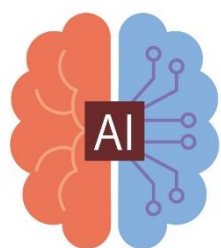
先日、「AI大量失業時代」という記事を目にしました。AIがこれからの社会に大きな変化をもたらすのではないかということ、多くの人が感じているのではないかと思います。

AI(人工知能)の進化がとてつもない速度で進んでいます。金融業の中核業務である与信や融資においては、専門知識を持った金融マンが数時間から数日以上かけて審査していました。しかし、AIがビッグデータを分析すれば1秒以内で判断することができ、審査時間を極端というべきレベルまで短縮することが可能になります。

中国のIT大手アリババグループの銀行では、個人商店の運転資金の融資はすべてスマートフォンで完結する仕組みになっています。スマートフォンから融資の申請をAIが審査と可能額を1秒もかけずに判断し、審査が通った場合には希望融資額をアリババグループが持つ世界最大の電子決済サービス「アリペイ」の口座に数分で振り込まれます。

また、AIやロボットの進化の度合いを考慮すると、早ければ10年後に、遅くとも20年後には医師も淘汰の波の影響を受けると考えられています。AIやロボットが医師の仕事の8割程度は代替でき、医師の主な業務である患者の診断、薬の処方、手術などをAIやロボットが担うものになっていくこととなります。

さらに、手術の分野でもアメリカのインテュイティブ・サージカル社が開発した手術支援ロボット「da Vinci(ダヴィンチ)」の性能の高さが注目されています。従来、困難な手術は高い技量を持った医師に依存せざるをえませんでした。1ミリ単位の精密さが求められる手術では、医師の技量が高くても限界があります。ところが、ダヴィンチを使えば人ではできない非常に細かい点にまで複雑な動きができるため、経験が浅い医師でも短期間の練習によって困難な手術をこなすことができるようになります。



AIがマネできないのは、共感力や企画力、発想力、創造力などといわれていますが、次のステージではAIがそれらの領域の大半までカバーする可能性はどんどん広がっていくと思います。

私たちの想定を超えてAIが人間の仕事を奪う割合がいつそう高まってきます。AIの進化はそれ恐ろしい速度で進んでいます。これから「AI大量失業時代」を真剣に考えなければならない時期にきています。

現状維持

私たち人間の脳は「現状維持」が大好きだそうです。これは生き残るためのいわば動物としての本能です。草原にいる牛が原っぱに生えている草だけを食べて、近くに生えているキノコを食べないのは牛の脳が牛の生存にとって「重要」な草だけを認識し、キノコを含むそれ以外のものを見えなくしています。草原や牧場で草を食べることは、それが牛にとって一番快適で居心地がいい場所だからです。現状維持が大好きな脳ことこの「快適」は、私たちが普通に思い描く「快適」とは少し違います。

例えば、「通勤の満員電車」と「運転手付きのベンツ」では「運転手付きのベンツ」の方が快適に決まっていると思いますが、毎日満員電車に揺られて通勤している人の脳は、「通勤の満員電車」が「快適」なのです。

このことを仕事に考えてみると、「稼げていない」「売れていない」状態が「重要」だと脳が認識してしまうと、次に脳はその状態を維持しようとしてしまいます。それができていない(稼げていない)という現状が強く認識されて「快適」になってしまい、脳は一段とその状態を維持しようとする側面があります。

脳の仕組みから考えて「前例」から外れたことを許さない組織や会社は、時代についていけず衰退していきます。新たな目標や目的を決めて具体的に現状を超えて前進していく行動が重要になってきますね。



【座右の銘にしたい名言】



生き残るのは、最も強い種ではない。最も賢い種でもない。
 変化に最も敏感に反応できる種である。

(チャールズ・ロバート・ダーウィン/イギリスの自然科学者)